

BLOWERS VOL. 8

B L O W E R S vol.8 ◆LINE UP◆

NOVEL:	<i>Mental Ranger</i>	作：長船吉光 絵：ただのりな
PBM REPLAY:	真鶴レポート	菊地研一郎
REPORT:	厚木レポート	菊地研一郎
ENQUETE:	'92国勢調査	菊地研一郎
NOVEL:	<i>Road of The Messiah</i>	Damyan=kizaki
ESSAY:	迷想装甲擲弾症候群	紺野紫楼
OPEN PLACE:	三等雑居質	作：読者の皆さん 編集：田中真人
REPORT:	編集体験記	田中真人

✍ 「真鶴学園風雲録」に参加するには専用別売りルールブック（送料込み¥200）が必要です。

「E c h o で 悪 い か ! 番 外 編」

✳ ハイ、今回編集を代行させていただいております、田中真人です。僕も編集長とBlowの読者さん数人に加わって4月11日の厚木基地の航空祭に行つて来ました。僕は初めて航空祭にというものに行きましたが、今回の厚木祭は目玉が多かったです。去年配備された超メジャー戦闘機F-14トムキャットや極秘スパイ機U-2、湾岸戦争で活躍した攻撃機A-10、世界一大きい輸送機C-5ギャラクシーなんかが目につきました。特にF-14は機首が立入禁止の縄より外にでているため、手で触れることもできました。しかし圧巻なのはデモフライト。米軍の主要戦闘機であるF-14、F-15、F-16、F-18はたつぷりとその空戦機動性が優秀であることを見せ付けてくれました。超低空を超音速で飛んだ時なんかは、カメラを用意する前に飛んでついしまつて爆音が後からとどろく、なんてことが何度もありましたし、F-15は景気付けに飛びながら火ダルマになつたり（燃料を空中で投棄して投棄した燃料にアフターバーナーで火を付けて爆発させる）、フライ・バイ・ワイヤ操縦方式を採用しているわけでもないのにF-18なんかはブガチョフコブラ（水平状態から一瞬で機体を起こす高等空戦機動）などを見せてくれました。これだけのショーがタダでみられるなんてすごいことです。僕はお金を払っても惜しくないと思いましたが。（読者さんが最初に言い出したことなんですけどね）しかし会場で困つたのはトイレ。この日は35万人を超える人が基地に来たという話でしたので、行列で待たされる待たされる。おかげで集合時間に遅れてしまいました。（あの時は一同にご迷惑をおかけしましてまったく申し訳ありませんでした）家に帰れば帰つたで会場で走り回つたおかげで筋肉痛の嵐。いやー参りました。P.S 今だから言いますが、C-5の塗装が指でこするとハゲるのをいいことに鉄十字と"PANZER VOR!"と落書したのは実はこの僕です。

Mental Ranger



作：長船吉光
絵：ただのりな

5：ミラマーは山へ入る道の入り口で適当な古木を一本選び、持参の柵を捧げ持った。少し離れた後ろの方で、十二三人の男たちが、まだ火の入っていない松明を持って見守っている。

——キサラはいない。彼女は別のグループを率いて他のルートから入っているのだ。もう一人の神官も、さらに別のルートから入ることになっている。彼の方は山の神の力を借りる。山の神は女性で気位が高く、同性の接触は認めない。

ミラマーは無言のまま二回柵を払うと、おもむろに前の木にひざまずいた。老爺である木々の精霊を呼び出すためである。

しばしひざまずいた後、彼女は何かに促されるように立ち上がった。再び二回あたりを払うと、またひざまずく。

瞬間、彼女はトランス状態に入った。あたりの時間が停止してしまい、地面が急に無くなったような感じになる。強烈な圧迫感が四方八方から押し寄せ、彼女を失神させた。

何故——！

彼女は動揺した。木々の精霊ミヤマモリツカミと接触するときは、こんなことはないはずだ——！

次に気付いたとき、彼女はまっ白いもやに包まれていた。このところの夢と同じだが、違うのは足がしっかり何かについていたことである。

(そうだ、ミヤマモリツカミは……)

彼女があたりを見回すと、横の方にぼんやりと人の影が現われた。……気配がミヤマモリツカミとは違う。彼女は本能的に、例によって懐中の御幣を取り出した。……途端に女の声で怒鳴られた。

「失敬な！この私を何と心得る！」

「！！??」

姿を見せた人物、もとい神に、ミラマーは目を疑った。我を忘れてただ啞然と口をあぐり開けて見つめた。その神は純白の表着の十二単をまとい、朝日影を摸した、いぶし銀の髪飾りをつけていた。その姿は絵巻などで彼女

も見覚えがあったが、また同時にまず彼女の前に現われる訳のない神だった。

山の神、ヤマツミノヒメだったのである。

ミラマーは、事情をつかみかねた。

「一体何用じゃ」ヤマツミノヒメは不機嫌をあからさまにしながら告げた。

「早う申せ」

「恐れ、なが、ら、……」

彼女は言葉に詰まりながら答えた。一つ言葉を選び違えただけで、すぐに姿を消してしまう恐れがあった。滅多にない機会でもあり、もし力が得られれば極めて効率よくことが進む可能性もあった。ミヤマモリツカミは比較的気楽に話が進められる反面、効率は悪いのである。

「私は巫女で、女なのですが……」

「百も承知じゃ」ヤマツミノヒメが苦々しげに言う。「……ミヤマモリツカミは今、体を壊して伏せっておる。私は母の命で下ったのじゃ」

「し、シノクラム……オオミカミの……」ミラマーは動揺した。

「左様」ヤマツミノヒメは、あわてて土下座したミラマーを見下して言った。

「して、何用じゃ。何もなければもう行くぞ。今日はやたらに声がかかる」

「お待ち下さい！実は私めの町の幼な娘が姿を消しまして、よもや……」

「おらん」ヤマツミノヒメはミラマーの言葉を遮った。「今さっきも神官が同じことを申しておったわ」

「恐れ入ります」

「用はそれだけか」

「はは……」ミラマーは、さらに頭を低くした。

「ときにそち、面を上げい」

ヤマツミの声色が、何故か急に柔らかくなった。虚を突かれてきよとんとなったまま、ミラマーが顔を上げる。それでも手は地についたままだった。

「お主、名は何と申す」

ヤマツミは、今までの不機嫌な表情から一転して若々しい微笑を浮かべていた。ミラマーは再び頭を低くした。

「ミラマー……ミラマー・レキシントンと申します……」

「ミラマーか。ふん、ミラマー……」

彼女は何度かその名を反すうしていた。
「ミラマーよ。お主の話は割によく他の地神から耳にする。私もいくぶん興味がある」

「そんな、もったいないお言葉で……」

「気にするな。聞くところでは、魔王フェルディナンドの妾ともやりあったことがあるというではないか」

「もうそんなことまで……」

フン、とヤマツミノヒメの顔が自慢げにほころんだ。

「必要なときにはいつでも呼ぶがよい。私はミヤマモリツカミとは違って、若いからな」

「ははあ……」

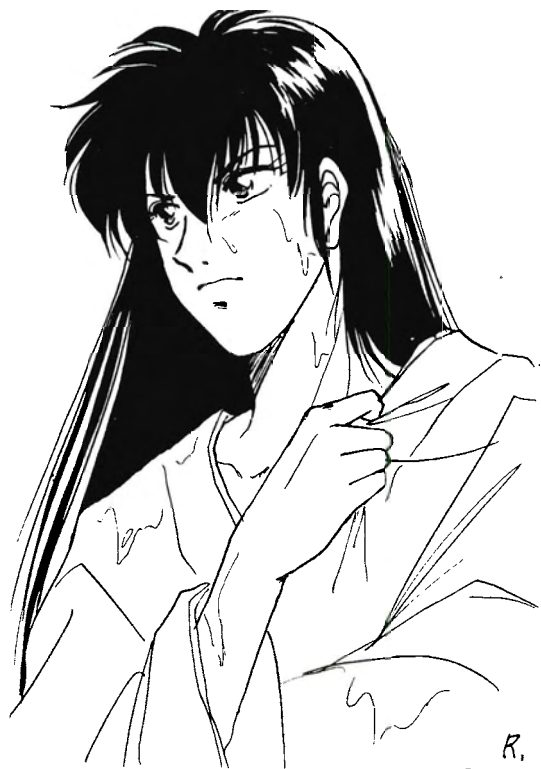
気配がだんだん遠ざかり、再び浮遊感がミラマーを襲った。

スッ、と寒気が戻って、ミラマーは気付いた。

「ミラマー様、どうだべ」

一団の中で一番歳を食っていたパン屋のエアボーンが、恐る恐る尋ねた。ミラマーはゆっくり立つと、しっとり濡れる着物の襟をかき寄せた。とにかく寒い。

「どう……だべ……？」



エアボーンは、控え目な口調でミラマーの顔をのぞき込んだ。ミラマーが風を立てぬようにゆっくりと首を振る。

「だめじゃ。おらぬ」

一団の中に、絶望が染み渡る。

「今頃はラングレー殿が社で大地の神にお尋ね申し上げているころであろう。皆の衆、早く参ろうぞ」

「キサラ様はどうすべえか？」

一団の中から声が上がる。

「放っておいて構わん」ミラマーは静かに告げた。「日が沈んで、暗くなる……二次遭難も面倒じゃからな」

彼らは、山の下の方へ急いだ。

6：キサラはレパルスの宿の食堂で、子供を相手に難渋していた。

どこかに人さらいがいるかも知れぬというので、夜になってから子供の大部分が、一番人目の多いここに閉じ込められている。はじめはふざけていた彼らも、閉塞された空間の中ですぐに退屈し始めた。そこへキサラたちの班が帰ってきたのだった。

空を翔ぶ魔術師キサラは、手品師キ



サラに変身せざるを得なかった。彼ら子供たちを含めた、宿の中にいる全員の空気を盛り上げるためである。

それなりの経験を積んだ魔術師にとって、物品取り寄せやその逆、腹話術、ロープ・マジックやカードの類は呼吸と同じようなもので、さしたる力を要しない。しかし自ら飛行するような「高等」魔術を使った直後となると、そうやたらにできるという訳にはいかない。まして今のように術以外の「演技力」が必要なときは、辛いことこの上なかった。キサラには子供受けするような単純なエンターテインメントの才能は無いに等しかったから、余計に消耗するのだった。

演じるものと見るもののフラストレーションが最高潮に達しかけたころ、ようやくミラマーたちの班が神官のラングレーに従って店にやってきた。自然、全員の視線がラングレーに集まる。「皆の衆」彼は厳かに告げた。「サティはまだこの町におる。しかし同時に、この町にはおらん」

「どういうことで、ラングレー様」町人の中から声上がる。「どうもあっしらには難しくて……」

「ミラマーよ、この子らを別室で見てやってくれたまえ。彼らにはちと酷な話であろう」

「かしこまりました」

ミラマーは一礼すると、不安気な子供たちの中に入っていった。そして、無理に張りのある声を作ってレパルスに空き部屋を尋ねた。

「奥の左側を」宿の主人がすぐ答える。

「一番広い……好きに使って下せえ」

「ありがたい」

彼女はおもむろに、部屋の隅に放ってあった濡れ雑巾を取り上げた。

「……その前に、一度口直しと参ろう。キサラの手品は退屈であつたろうから」

そうして宿の下男にバケツ一杯の水を汲んで来るよう言いつけると、暖炉を背に口上を始めた。

「『心頭滅却すれば火もまた涼し』とはラングレー師もこの私も常々申して参ったことであるが……」下男が水を

汲んできた。その中で雑巾を洗いながら、口上を続けた。「いい機会じゃからこの場で実証して進ぜる」

彼女は雑巾を少し畳み、水もろくに絞らずに暖炉の太い火掻き棒の端をそれで包むようにしてつかみ、暖炉の中を掻き回した。ぱちぱちと火の粉が上がり、雑巾からはじゅうじゅうと湯気が立ちのぼる。

「私は御存知のとおり不精進であるから、あまり長くはできぬ。……何をやるかがまだであつたな」

鉄棒をもう一度、火の中に入っただ。焚き木を新たに何本か放り込む。

「これから真つ赤に焼けたこの火掻き棒を、素手でつかんでご覧に入れる。何も考えずただ呆とつかんだなら、掌が棒にくっつき、焼けただれ、大火傷をしてしまう。しかし、今言つたように精神を集中し、そして真の法力と神のご加護さえあれば、ただの棒をつかむのと同じこと。つかんだ手には火傷のやの字も無い。……ふんぬ！」

ミラマーは気合と共に右手をバケツの中に突っ込んだ。

「断わっておくが、これは何の仕掛けも無い。よろしいか？」

よろしいも何も無い。「本家」のラングレー師からして、ミラマーの迫真の演技に吞まれてしまっている。

「ヤアッ！」

ミラマーは左手の鉄棒を抜き取り、目の前に水平に保ち、同時にバケツの中から火掻き棒の先端、灼けてオレンジ色になっている部分を一気につかんだ。そしてイヨッ、ハアッ、……と気合らしきものをかけ出した。更に呪文らしきいいかげんな文句を唱えながら、右手で数回、火掻き棒をしごいて見せた。子供たちの中には腰を抜かしてしまったものもいる。

「……と、まあこの通り。何もそんなに驚くことではない」

ミラマーはまったく無傷の右手を掲げて見せた。観衆たちは一斉に拍手しだした。指笛を鳴らすものもいた。ようやく空気が普通になった。これで、この後の話に何とか対応できるだろう。

(続)

真鶴レポート

「理絵……ちゃん」井村真知子の顔は不信感と好奇心に包まれていた。「これ、何？」

早坂理絵はそれに答えるかのように、自信一杯の含み笑いを浮かべた。

「これはYF-107A。F-100の爆撃能力を強化したタイプよ」

「……ヘンなの」

井村は、パステルピンクを基調にしたサンダーバース風の塗色の、その機体を見上げた。F-104の胴体をやや太めにしたような胴体の背中に、楔形の大きなエア・インテークが乗っかっている。ずいぶん乱暴な設計だが、当時は荒唐無稽なデザインの方がよほど当たり前に映ったものだった。

「今日からこれで飛ぶからね」早坂は言った。「何たって、わざわざ銀座の天賞堂まで行って探したんやもん」

春休みを目前にして、坂井法子はいよいよ焦りを覚えていた。あと一年で栗田はるなが卒業してしまうからである。何とか連敗の虚脱状態から脱した彼女は、今までとはうって変わってまじめにF11Fタイガーで「通常の」訓練飛行をこなし始めた。毛嫌いして自前のF-18にばかり乗っていた一頃は、エライ違いである。

「これは、怪しい」

日頃から推理やら勸善懲悪やらを読み込んでいる白根こだまは、坂井の豹変ぶりに逆に不信感を強めた。彼女からしてみれば坂井は先輩で、早い話立場が上になるわけだが、この一人良がりの傾向が強い「要注意人物」を彼女はあまり好意を抱いていなかった。風紀委員上層部から「学内の秩序を乱す栗田一派の後を襲う者」と説明されてその通りに先入観を抱いていたのだが、このところの行動でそれが更に増長された形である。だから彼女は学内に栗田のシンパが多いのも、どうも納得がいかなかった。

その白根の立場から見ると、この坂井の豹変は、新たなる活動を隠すための偽装としか写らないわけである。当然彼女は、委員会上層部にこれを報告した。その日から、風紀委員会の航空勢力は第一級厳戒体制に入った。この状態になると、風紀委員会直属のRF-4E、-8E(改)はもとより男子部のE-3、女子部のニムロッドAEWも活動を開始、訓練空域及びその付近での危険行為一斉取締りを放課後一杯行うのである。もう一段上の特別厳戒体制が発令されると、模型部は完全に活動停止となる。

早坂がF-107を買ってきたのと同じころ、伊藤早苗たちカナダ短期留学組が帰国した。「言葉の壁」のストレスでやせた者、安くてもでかいステーキで太ったもの、あるいは連日のスポーツでまっ黒になったもの、様々である。そして更には同行の、30人から成る「カナダ人短期留学生」が真鶴生徒の話題を引いた。

「風呂はシャワーしか使わない」「靴で寮の床に上がった」「ガムもらった」「搾った生き血をグラスで飲む」等々、カナダ人に関してあることないことワツと広まるのも今の時期だ。もっとも、「バスケットが強い」という噂は正真正銘ものだった。特に女子部で、レギュラーチームが苦戦したのである。

そして、伊藤は「姉妹校交流部」の設立を思い立った。留学制度がありながら、何でそういう部がないのか？発想点はそこだった。

だが、かつて竜野了が直面したように、やはり顧問の問題から挫折した。とりあえず担任の勝野(日本史)に相談したまではよかったが、彼にこう言われたのだ。

「そうは言っても、ある意味学校全体がそういうクラブみたいなものだからね。とりあえず、人数が揃ったら言いなさい。私が職員会議にかけてみるから」

ちなみに、校則ではクラブになるには20人以上が必要である。

その不審な輝点を真っ先に発見したのは、燃料不足で帰港途中だった護衛艦「まや」のレーダー係兼副長、有明みどりだった。女子部校舎の辺りから突然現われて、男子部へ向かって一直線に飛んでいく。速度は急激に上がっていた。

「マっちゃん、不明機！」

艦長の井村は、自分のディスプレイにまわされた映像に、一瞬ためらった。が、次の瞬間には警報を発していた。

「こちらDE-27、不明機を発見！コースは規定Aの陸寄り、男子部へ向けて加速中！」

「こちら女子部管制、確認しました。空域EのKで接触します。……エマー、エマー、池田先輩、迎撃願います。空域EのK、コース規定A下り。機種及び所属不明。続いて指令、CV-20、トムを4機、上空待機させて下さい。繰り返します。池田先輩は空域EのKで規定A下りの不明機を迎撃。CV-20のトムは上空待機。以上」

池田は宇垣の「ハイライト」（CV-1）乗組みのF-18隊長で高3であり、その時は隊員の戦技訓練中だった。彼女が機影を視認したのはすぐである。

「は……速い！」次いで彼女は目を疑った。「あれは!？」

赤いフランカー。Su-27。一昔前のコンピューターゲームにあったような気がする。しかしあんな目立つ色で侵犯とは、どこかおかしいんじゃないか？

「本部、視認したよ。機種はフランカー、色は赤。所属は不明。……まっ赤っかで、他に何もかいてない！」

連絡が終わると、警告に移った。

「赤いフランカー、減速して脚を下ろしなさい。でないとマジで落とすよ！」

そう言って彼女は、連れてきた3機をフランカーの後ろへ散らして、自分はその上へかぶさった。あとは「追い落とし戦法」の要領で徐々に間隔を詰めていく。彼女はこの一年だけでも10機をこうして捕まえた。今回もそう行く、はず……だった。が、

「え！」

僚機の悲鳴で下を見たときは、もう遅かった。間一髪の際どい右横転で囲みを突破したフランカーは、そのまま一気に離脱した。池田はためらわなかった。

「男子部管制！不明機が一機、そっちに逃げた！……悪い！」

「——エマー、エマー、こちら男子部管制。女子部からお客や。機種はフランカー、色は赤。所属不明。規定Aの陸寄りをまっすぐ来よる。近くの全機で迎撃。気張りや」

貴志参（きし・につく）が管制塔から指示を流すと、にわかに付近の空域は活発になってきた。……が、成り行き上、真っ先に接触したのは男子部主将の赤城広義である。今もなおF-4EJにフェニックス運用能力を付加した機体に乗る彼は、やはり加賀実の後席手である。そして、F-5隊の集団戦技を訓練していた。12機から成る一体を一まとめに運用して火力を上げる、究極の一撃離脱だった。

「いいか、実地演習だ。敵が見えたらその方向へぶっ放せ。いちいち狙わなくていいから、とにかく撃て！……なに？」

レーダーの能力が上がっている加賀機は、その頃既にフランカーを捉えていたが、こともあろうにその航跡が180度ターンしたのだ。

「……女子部管制、不明機がそっちに行った。戻ったぞ！こっちはこのまま追う」赤城は言った。「編隊はそのまま！また来るかも知れない」

そのころ加越京子は、男子部と女子部の境界線近くのMAの射撃練習場で、やみくもに120mm砲弾をぶっ放していた。ある時は全速で、またある時は起伏の陰に停車して、とにかく休みなしに撃ちまくる。発射薬はニトロセルローズで、爆発音も実物に比べたらはるかに静かなのだが、同行していたメンバーの鼓膜はおかしくなり始めていた。加越本人も少し耳鳴りを覚え始めていたが、それでも猛砲撃はやめようとしなかった。補給はほぼ30分おきに行われた。その時だけが安らぎの一瞬である。射撃場の地形も若干変化していた。

「3号車、弾幕薄い！」

少しでも手を抜くと激が飛ぶ。もうみんなヤケクソである。

今の鬱状態を吹き飛ばすには、ムチャをやるしかないと思いついての行動である。鬼気迫るその気迫には、仲が一番の初雁さえも一歩退くものがあつた。

そこへ水を差すできごとが起こつた。

何十機とも見えるジェット機が、彼らのすぐ真上を轟音と共に霞め飛んだのである。

「アンボンタン！落っこつまえ！」

腹立ち紛れに、加越はモニターの機影に怒鳴りつけた。その編隊が、彼女のよく知る人物を追跡しているものとは、知る由もない。

今度女子部でスクランブルに上がったのは、女子部で迎撃能力がダントツ一番の栗田はるな隊である。こうなると野球の盗塁封じの観がある。離陸して何分も経たずに、彼女たちは接触した。

「池田と同じテで行くわよ」はるなは告げた。「もうすぐ風呂が開くし……手早く片付けましょう」

余談だが、真鶴には沸かし湯ではない露天風呂がある。いざという時レジャー施設にすぐ転身できるようにするためだ。

しかし彼女らの手をわずらわせるまでもなく、事件はあっけなく片付いてしまった。

「こちら風紀委員、高2 Aの坂井法子、即刻着陸しなさい。繰り返します。高2 A、坂井法子、即刻着陸しなさい。こちらは風紀委員、親衛隊です」

有明の、鋭くきつい声がすると同時に。低空で待機していたのだろう、文字通り「ウウあッ」と風紀委員の機体が出現した。先刻加越たちの頭上をかすめた、あの編隊である。完全に球形に取り囲まれた赤いフランカーは行動の自由を奪われた。はるな達も取り込まれてしまっており、逃げた時は衝突する時だからだ。全機ブルーグレイの制空迷彩に包まれたRF-4とF-8の群れは、それなりに壯観である。

「こんなに……、風紀って、いたんか」長門が呆れる。

「どうせ陸上班とかの水増しもおるやろ」扶桑が言った。

「黙ってまっすぐ飛んだ方がいいって」はるながたしなめる。「これだけいると、数だけで危ない。……もう、事が私たちから離れてる」

かくしてフランカーは女子部におろされた。乗っていた坂井は模型部顧問の鹿間（体育）にこっそり油を絞られて、反省文の提出を課せられた。

その上、寮の自室へ宇垣に殴り込まれた。彼女は部屋へ踏み込むなり坂井を殴り飛ばしたのだ。同室の初雁が机で座ったまま真っ青になってすくみ上がる。

「この馬鹿野郎！」宇垣は容赦なく彼女の顔を拳で張り飛ばす。「そんなにまでして腕上げて何になる！」拳の嵐は止まない。唇も切ったか、鼻から下が真っ赤になった。「それでハルの奴が追いつめられてるって位わかんねえか、ああ!？」

「先輩、やめて！」健気にも初雁が止めに入った。「風紀に知れたらコトです！」

「放せ！」

とぼちちりで初雁も壁へ振り飛ばされる。その流れで、坂井は腹から蹴り上げられた。

「畜生め、オレの面にドロ塗ったくりやがって……ハルとの勝負はオレが預かったって言うただらう！」

「宇垣先輩、榛名先輩の事も考えて下さい！」

この一言が効いたか、宇垣の狂怒はとりあえず一段落した。それまでに数ダースの鉄拳、平手が全て坂井の顔面に注ぎ込まれている。彼女の顔面はポコポコに腫れ上がっていた。風紀委員や鹿間に小突き回された分も併せると、相当な量になるだろう。

「いいか貴様、……一つ教えてやる。ハルは、明日からペラ機に乗る。DC-7Cだ。今まで通りやるなら、やればいい。ただしフェアにやれ。わかったか！」

ロクに返事も聞かず、叩きつけるようにドアを閉めて、宇垣は出ていった。

「寮監とこ行こう！」

「……いいの、自分の責任だから……」

初雁が肩を貸そうとするのを振り払って、坂井は押し入れから救急箱を取り出した。

男子部にも、再び波が訪れようとしていた。何やら、影山が戦闘機を買い込んでいるらしいという噂が、どこからともなく流れだしたのである。ある者は影山がラファールの梱包を1ダースばかり抱えこんできたのを見たと言った。またある者はF-4Gその他のレーダー・キラー機であると言ったり、とにかく情報は錯綜していた。そして実態を知るものは、実は皆無だった。一番近い情報はFSXとF-14、それぞれ一機ずつというものだったが、生徒の間では最も信憑性の薄いものと見られている。逆に一番信用されていた噂は、ミラージュ4000とMiG-29、そしてSu-37それぞれ2機ずつというものだった。やや誇大気味な方が信用され易いのは、確たる証拠がない場合の常である。同室の者が怖がって、何も喋べりたがらないのが、事態をより悪くしていた。

「風紀委員だってバカじゃない。何か起きる前に手を打つさ」

そうやって泰然と構えていた鳩山は、むしろ異例な方だった。

※その他、生徒間に流れ始めたうわさ

- ①三河委員長を初めとする風紀委員中枢部が、前委員長の勅使河原の指示で、再びクーデターまがいの行動を起こすらしい。その際の武器は、トマホーク巡航ミサイル。
- ②女子部MS主将の栗田榛名が、①が事実になった場合の対策を練っているらしい。前回と同じく男子部に逃げて、それからどうするかについて、宇垣と連日相談している。
- ③男子物理部と女子工芸部が、風紀委員の依頼を受けて「秘密兵器」の開発を開始した。模型部の活動にかかわることらしいが、詳細は不明。部外者でこの話題について接触を図った者は、大概風紀委員会のリンチを受けている。
- ④栗田はるなは航空自衛隊には行かず、航空大学校に入って民間航空会社へ就職するつもりらしい。今年大型機に乗るのは、その為の練習らしい。
- ⑤学校側は水産科・農業科の廃止を検討し始めたらしい。

今回のPC（1保留）及び主要NPC（アンダーライン付き）

高校	男子部	普通科				
		1年A組	影山 翔	(勝 讓二)	貴志 参	竜野 了
		2年F組	<u>加賀 実</u>			
		理数科				
		1年H組	沖田 悟	菅原 絵馬	鳩山 平和	
		2年G組	<u>赤城 広義</u>			
	女子部	普通科				
		2年D組	<u>栗田 はるな</u>			
		F組	<u>池田 美穂</u>	<u>宇垣 麻美</u>	<u>栗田 榛名</u>	
		1年A組	<u>伊藤 早苗</u>	<u>加越 京子</u>	<u>坂井 法子</u>	初雁 つばめ
		F組	<u>永野 伊勢</u>			
		新入生A組	<u>朝比奈 美雪</u>	春日 千明	(次回より活動化)	
		理数科				
		新入生H組	天本 伊織			
中学	女子部	1年A組	有明 みどり	井村 真知子	早坂 理絵	白根 こだま

その他のリアクション

・影山翔

その他特記事項なし。

・貴志参

その他特記事項なし。

- ・竜野了
少林寺拳法部の定着化へのプランを練り始める。
- ・沖田倍
図書室に入り浸り、データ、知識の収集に没頭。授業以外の実験室への出入りを規制されるようになった。
- ・鳩山平和
タイコンデロガ級巡洋艦「CG-6」の艦長へ昇格。物理部へ転部。
- ・菅原絵馬
タイコンデロガ級巡洋艦「CG-5」の艦長へ昇格。独立艦隊を鳩山、及び中2の駆逐艦（ギアリング級）3隻と編成。
- ・伊藤早苗
カナダ土産のX-WINGをフライアブルにする計画は、必要な揚力を稼げず挫折。
- ・加越京子
自分の班を90式戦車からチャレンジャーへ更新する計画をキャンセル。連日とにかく射撃場を暴走して周る。
- ・坂井法子
風紀委員のマークが更にきつくなる。F-4平パイロットの話は取消しになり、基地隊のA-4Mスカイホーク班にまわされた。
- ・初雁つばめ
地下鉄敷設運動のための署名集めを再開。測定のやり直しを始める。
- ・朝比奈美雪
弓道部に入部。模型部はMF、機種はA-4M。基地隊（坂井と同じ班）に配属。
- ・春日千明
風紀委員会。模型部はMAの加越の班（90式戦車）に配属。
- ・天本伊織
絵画部に入部。模型部はMAの74式戦車。当座独立の立場。
- ・有明みどり
「まや」の電子情報艦への改装を実施。戦闘能力を維持しつつ、アメリカ海軍の「ブルーリッジ」に近い電子情報収集能力を追加した。しかもハーブーンの発射筒まで追加。
- ・井村真知子
美術部の活動として4月分カレンダーを作成、配布。（絵柄は後掲）乗艦「まや」を改造して男子部へ赴き、電子情報偵察を始めた。
- ・早坂理絵
井村真知子の飛行教官を継続。一度当番で昼休み放送を任されたが、ARBの「ガマン・エブリバディ」を流してまた委員会内の株を下げた。生徒間では一躍知名度がアップ。
- ・白根こだま
「レッド・フランカー事件」で女子部風紀委員の大編隊を組織、坂井を捕獲した。この功で親衛隊へ抜擢。またRF-8E（改）8機の長になり、坂井法子監視専属班を編成。

知ってて得する真鶴豆知識

- ・風紀委員の模型部内での地位…言ってみれば旧東側軍における政治将校のようなものです。まんべんなく配属されて、部内を監視します。もちろん何かことがあれば必要な処置をうつわけで、一般の生徒、特に「宇垣一家」の者たちは彼らを疎んじています。
一方で風紀委員に属していると比較的いい装備を割り当てられるため、メカマニアには堪えられない「アメ」になっているようです。
- ・宇垣一家…改心した後の清水次郎長一家とほぼ同じ。一般生徒のウケは良く、ある意味風紀委員よりも「らしい」風紀委員として機能している。生徒世界の「ウラ」の世界をほぼ取り仕切っている。一頃影山翔が暗躍したり、あるいはあと1年で元締が卒業することもあって、組織の瓦解が心配されている。姐御分の宇垣麻美は、余程体面を傷つけ

られない限り、手を下しはしない。その親分格の栗田榛名（はるなの双子の姉）の指示で、子分たちにも統制は行き渡っている。

- ・DMシステムの乗員…船は最低でも4人（船長、副長、砲術、無線）が必要ですが、他は一人で動かします。戦車でもそうです。爆撃機など大型機では2人ないし3人で動かす場合もあります。

校長から

さて、次回から1年生は2年に進級して、新たに新入生がやってきます。2年生は身長などの身体的データを、常識的な範囲で変更することができます。少なくとも視力以外は下がることはないよね。

んで次回（4月前半）のイベントは……

第2日曜に、真鶴総番の宇垣麻美（女子部高3・普通科）が主催して、彼女の乗艦「ハイライト」（ニミッツ級空母）で新歓コンパが催されます。非公式なので強制はされません。また宇垣は基本的に情の厚い人なので、イッキ飲みの強制はありませんし、参加しないとリンチ（死語…？）に遭うとか、そういうのも一切ありません。

学校公式の儀式としては、新学期初日に男女それぞれで講堂に集まって、一旦ステージの奥の釈尊の像を拜んでから、対面式に整列し直して一礼するだけです。新入生歓迎会などは寮で行われます。もちろんアルコールは出ません。夕食会みたいなものですね。

それから、日本観光（東京・京都・大阪）を終えたカナダ人留学生が、いよいよやって来ます。伊藤さんの部屋にも一名入ってきますよ。部屋割りには他の人はまず関係ありませんが、課外活動で関係します。特に高1・2の午後の授業にはどこかのクラス（ランダム）に必ず来ますし、模型部にも来ます。彼らの装備は、ハリファクス級フリゲイト艦（真鶴に常置されている）二隻、CF-188八機、M1戦車四台で、男女半分ずつ（ただしM1は男子のみ）です。

日常的な面では、4月後半か5月初頭に行われる男女対抗戦にあたっての練習が始まります。新入生も例外ではありません。この対抗戦は、男女それぞれが、お互いの「本部」へ攻め込むものです。一般に港湾施設の奥、縮小機のすぐそばに設けられています。陸路は途中の森を抜けるのが厄介なのと、海から攻めた方がお手軽なため、あまりされません。空路も輸送機の数それほどないのと、男女それぞれ迎撃能力が高い（戦闘機・SAMともに）ので、やはり行われません。特に男子部は、栗田はるなの班を向こうに回すことになるわけで、海路一本で攻めるのがここ何年か続いています。そしてこれが終わると、模型部主将の交代となります。なおこの時、留学生は全員男子部につきます。これは海外交流始まって以来の伝統です。

余談ですが、はるなはまだ秘術の全てを明かした訳ではありません。興味のある人は、自分で挑発してみましょう。

それから重要事項。定期試験制度を、残念ですが**廃止**します。既に今年の入試から廃止は行われています。つまり、ゲームワールド上では存在しても、システムとしては消えるということです。試験があることでプレイヤーから離れすぎたキャラクターの作成を防ぐ効果があると思ったのですが、そうすればアクションの自己矛盾も、ある程度解消できるし。試験問題を作るのが大変という以上に、私も単位が難しいという問題があるので。近いうち、キャラシートをこれに対応したものに更新する予定です。

更に業務伝達。水増しキャラですが、今後、できたら作成者はコマンドをかけて下さい。無理には言いませんが、やはりそうしてもらえると助かります。現状だと名前が出る半数以上が私の思った通りに動いているわけで、そうするとプレイヤーサイドとしてはおもしろくないでしょ。先が読めるし。

☆模型部長選挙のこと

なんちゅーかその、惨憺たる結果でした。水増しキャラが投票しなかったこともあって、山本深雪（女子部高2F）が2票、その他全て**棄権**という有様。当然の結果として、

彼女が今年の模型部長です。そして同時に生徒会長です。模型部主将などの人事の最終決定権は彼女が握りました。なお、風紀委員会を筆頭とする専門委員会については、各委員会で決定、これを学校が職員会議で承認する形になっているので、また系統が異なります。

新入生の方へ

何せ始めたばかりでは、わからないことばかりだと思います。そこで今回、基本的なところを二つ、まとめてみました。

① リプレイに自分の行動が占める割合は、かけたコマンドの質と量に比例する

これは読んだ通りです。「良質」なコマンドは優先的に採用されます。これは様々なネットゲームでうるさいほどよく言われていることですが、うちではまず

- i キメ細かい説明があること
- ii 自己完結型でないこと
- iii 現実から遊離しすぎないこと

この3点が重視されます。iは、要は単なる個条書きでなければよいのです。でないと、具体的にどういう事をするのかわかりませんしね。iiは、自分にしか関係ないので、公の場でリプレイにする必要がありません。これは「その他のリアクション」用です。iiiは説明するまでもありませんね。

② 鬼の風紀、無敵の宇垣

これは、「逆らったら無事で済まないもの」です。風紀委員会は皆さんが想像するよりも陰湿で、かつ厳格です。バックにとある大暴力団がついているのですが、これを指摘した生徒はその瞬間から、背後に気をつけなければなりません。委員会内には「執行部」「親衛隊」「一般委員」「憲兵隊」の階層があって、一番恐いのは執行部とされています。宇垣は「豆知識」に書いてある通りです。

②は嫌なら無視して構いません。そうすることで新しい途が拓けるのであれば、特に宇垣は寛大ですから、そう大きな墓穴にはならないでしょう。

それと重要なのは、「ここは蓬萊学園ではない」ということです。似て非なるものです。蓬萊シリーズが始まる前から、原作の「榛名～」はスタートしていました。ですので、もし蓬萊を知っている方がいたら、向こうの常識をこっちへ持ち込むのはやめた方が賢明でしょう。そういう行動は真っ先に無視されるはずですから。

制服のこと

真鶴の制服は、男女・冬夏で2パターンずつ、合計で8パターンあります。

	男子部	女子部
冬一種	黒の詰襟	濃紺のブレザー・同色のネクタイ
冬二種	濃紺のブレザー・同色のネクタイ	濃紺のセーラー服・赤のリボン
夏一種	上衣：指定のマーク入り開襟シャツ	上衣：指定のマーク入り開襟シャツ
夏二種	なし	上衣：白のセーラー服・赤のリボン

一種制服は、学校行事があるときに着るもの。二種制服はそれ以外の日に着るものです。従って一種制服は全員持たされます。しかし二種制服は自由です。例えば栗田姉妹（双子）でも姉の榛名は普段二種しか着ませんが、逆に妹のはるなは一種しか持っていません。

風紀委員は常時一種着用が不文律になっているようで、これが忠実に実行されています。

広 告 !

今このPBMで影山翔のキャラマスターとして参加中の藤田氏が、PBMを始めます。以前やっていた「テイクオフ」に似ているらしいということ以外私もよく知らないのですが、タイトル未定、現代空戦PBMです。現在、ルール設定の最終段階に入ったとかで、広告解禁となりました。ルール代は300円（干込み）だそうです。参加希望の方は、〒211 神奈川県川崎市中原区下小田中6-9-17 蔵丑昌弘 様まで。

厚 木 レ ポ ー ト

エー、行ってきました。厚木航空祭。参加したのは吉楽・小西・堀尾・水野谷・松生・ヤグアル・林、そして私の8名（敬称略）。相模大野で集まった時点で、脚立・カメラ族でエライ混み様だったので、無料バスを使う計画はあえなくお流れ。ちょこっと迷いつつも20分ばかり歩いて、何とか基地正門にたどりついたのです。我々が普段写真撮影に使うのは滑走路端のフェンスの外で、ちーとばかり勝手が違ったのです。

とりあえず午前中は散開して展示機を見てまわったのですが、やはり今回の目玉はF-14A。-4EJ、-15J、-18Cなんかといっしょくたに置いてあったのですが、あれの人気にはかなわないようでした。他にA-4やP-2等、そろそろ見られなくなるような機体もあったのですが。……まあ、私はP-2が一番よかったけど。なお、林氏の話では、このEJはどうも改らしいとのこと。一番珍な機体だったのはU-2でしょうか。60年代には厚木に常駐していた機体ですが、最近はトンと見なくなりましたし。

んで午後になって天気がいくぶん良くなって、展示飛行の開始。前座（と言うと失礼なほど良かったが）の軽飛アクロ、SEALS(?)のパラシュート降下（曲芸付き）が一通りあったあと、真打の海軍機！……凄かった。もうこの一言に尽きる。最初一機ずつのフライパスだけかと思わせておいて、それからタッチ&ゴー演習で派手にバーナーをたくし、-18はプラグジョブもどきをやるしで、辺りはジェットの高低音に包まれたのであります。きっと近所はたまらんかったろうな。……ただ、アナウンスでF-14のことをしきりに「トップガン」と言っていたのが気になりましたが。周知の通りあれは「トムキャット」です。大体あの映画やったの何年前だ？

んでもって圧巻は-14、-18、-16、-15の超音速フライパス。あれって本当に音が後から来るんですねえ。いや、堪えられませんでした。それにしても、そこまで速力を出しておいて、なおかつ-15のエンジン音がワリと静かだったのには驚きでしたね。水野谷氏が「1万払っても惜しくない」と何度も言っていました、決してオーバーじゃないでしょう。もっとも私の財布じゃ払えないけど。

あと、この間に一級品のアメリカン・ジョークに接しました。

昼前から「ステルスが来る」と盛んにアナウンスしていて、まともに信じ込んだ（当然である）観衆は滑走路脇のロープに鈴なりになったわけですが、これがただのホラだった、と。まあ、実地にいなけりゃ面白くないけど。「只今ステルスが通過します！」の説明でスピーカーからレシプロ音が流されるまで、ほとんど気付かなかったもんなあ。やられた。エアバンド・ラジオがあつてかなり聞き込んでれば、あるいはわかったかも知れないけど。

ウソのようなホントの話はもう一つ。

財布とヒマの都合であれから半月ほどして、ようやくフィルム（フジ、ASA400、36枚2本）を現像に出せたわけですが、返ってきたうち片方の袋がやけに薄い。嫌な予感と共に空けてみると、やはり

「未 露 光」（何も写っていないこと）

でした。しかも後半、派手なフライトが始まってからの分。まあP-2とA-4の写真が無事ただただでもよしとしよう。それにしてもF-14の大写真（構図的には満足していた）がパーだったのには泣ける……。巻き上げプーリーが回ってなかったから、不審には思ってたんだが、なあ……。

つーことで次号購入時の合い言葉は

「REMEMBER ATUGI！」

（殴り書きにするべし）

または

「2 Cheeseburger and 1 Beer」

です。

今月のアンケート（国勢調査）の⑥に、どっちか一つを書き込んで下さい。別に書かなくてもいいけど。

住所録（非公開）作成のために使用しますので、最低限住所と名前だけは記入してください。なお、SDで既に回答済みの方は、混乱しますので送らないでください。

① 3000円持っています。どれを買いますか？

軍歌のアルバム／FSSグッズ買えるだけ／Hな同人誌4冊

② バイク女と剣道娘、どっちが好き？

③ 「真鶴学園風雲録」に参加していますか？

④ 平均月収はどのくらいですか？

⑤ 何か他のPBMサークルに参加していますか？していたら、その名前を書いて下さい。

⑥ 今月のキーワードをどうぞ。

御名前

歳 男 / 女

御住所 〒 _____

☎ (_____)

(呼・自)

Damyan = Kizaki's

Road of The Messiah

Road No 6 “No peace”

Written by Damyan = Kizaki

Prologue

こんな夢を見た。

“俺”は、所々の光の輝く黒い空間の真ただ中に、ぼんやり浮いていた。

“俺”の下には、コバルトブルーの蒼い石。

上には……ただ、“俺”の周りにあるのと全く同じ空間が、虚無に広がっているだけ。

“俺”は、何も無いはずの空間を蹴った。

すると、“俺”の意識は体を離脱し、マクロな闇とミクロの光の溶液の中を、光の速さで泳ぎ始めた。

闇が渦巻き、光が飛び去る。

“俺”の意識は、“黒”の中を跳び続ける。

やがて、“実”だった空間は“虚”にとって代わり、“俺”の意識にも“虚”が作用してきた。

“実”の反対が“虚”、つまり後退しているのだ。

信じられないことに、そこは時間さえも“虚”だった。老いた星が若返り、若き星が暗く大きな胎内に還る狂気の世界。

きっとディックも、この世界を垣間見たんだろうな、と“俺”の意識はふと想った。

突然、目の前にまばゆい光源が現れた。その光は、周囲の闇を打ち倒し、それから解放されし小さな光を、まるで飢えたアメーバのように食欲に貪っている。

それは徐々に巨大になっていき、今にもこの“ありえない空間”さえも飲み込もうとしている。

“俺”は目の前の空間を、両の腕で力一杯押した。

“俺”は忘れていた。この世界は“虚”であることを。

“俺”の意識は、さらにスピードを増しながらそれに近づいていく。

いよいよ、“光”がこの世界を破壊し始めた。

まるで……そう、この“虚”という名の空間を

(排除しよう)

否定しようとしているかのように。

まるで、自らが『神』であるかの如く。

“呪ハ滅セヨ、我スナワチ律法ナリ”

一気に光に包まれる。

まぶしい……“光”。

そこで目が覚めるのだ。

いくら考えても、この夢の意味を解することは不可能だった。

まあ、そのうち分かるだろう……

今日も“死ぬための生”が始まる。

……クリスタルタワー襲撃の予兆。

I

今は、“Xeus”時間でいうところの3月。

イスラム教徒の断食の月、“ラマダーン”が始まっていた。

俺もガキの頃、イスラム教圏内にいた時こいつをやらされたことがある。“身をもって宗教の勉強をするため”だとか、お袋がぼやいてたっただけ。はっきり言って、当時の俺は、

昼の間だけとはいえ、一切水を吞まず、唾さえも飲むのを禁じられるこの儀式をバカバカしく想い、アッラーを“圧政者だ”とけなし、彼の“拷問”に嬉んで耐えている教徒達を哀れに思ったものだった。まあ、あの時はイスラム教ってのをほとんど理解していなかった、そう思うのも当然だろう。少なくとも、俺はそう思う。今はどうか、と言っても……俺はどっちかつつーとキリスト教メインなので、イスラムの教えについて解説しろ、と言われても困る。

こんなことを言っても仕方ない。俺達はイスラム教徒ではない。少なくとも、俺の仲間・協力者には、そんな奴はいない。いまさら異世界まで来て、イスラム教を学ぶ必要なんてないはず。それに、クリスタルタワー、つまり開国派連中の“総本山”を攻める時が近づいているのだ……そんなことを考えているヒマはない。

さっき、俺に貸し与えられた小部屋の柱時計が、午前2時を告げた。すでにマディと、彼のボディガードに任じられた掛田は、ディファレンスダイバー達の機関工作によって造った偽の市民番号を使って借りた、この一軒家を発ったはずだ……ん、外に蒸気自動車の走り去る低い音がする……予定通り、闇武器商人の許に向かったようだ。

窓を開けると、昼とは打って変わった冷たい風が、この小さく粗末な部屋に静かに忍び込んでくる。

氷の死神の息吹に身をまかせながら、俺は木のロッキングチェアに体を沈め、古ぼけた革の手帳を眺めている。

黄ばんでシミだらけのその汚いページには、俺のミミズがのたくった字で、中島敦の“山月記”の写しが記されている。

確か、俺が高二の頃のはずだ、その悲惨な運命の男の話の初めて読んだのは。なぜ、その話に俺が惹かれたのか……考えてみると、今さらながら鳥肌が立ってくる。

そこには、俺とほぼ同じ運命を持った男がいたのだ。

俺と同じ……

おのれの体が、心が、今のものとは別の“自分”に乗っ取られていく男。

この話の主題とかは別にして、本当に俺と同じような奴が、俺と同じように苦しんでいたのだ。

あれを見た時、思わず涙が出てきたのを、今でもはっきり覚えている。

右の目からは、今までいらないと思っていた、“俺の同類”の発見に対する感激の涙。

左の目からは、自分の逃れようのないクソツタレな運命を再確認してしまったことへの、悲しみと怒り、憤りの涙。

正に“本能の命ずるまま”、俺は先月潰した“チーム”の下っぱから盗った手帳（全く、んなもん持ってるなんてアホな奴だ）

の空きページに、その落書きだらけの現国のクソ教科書のページを写し、それをいつも持ち歩いては読んでいた。

もう、何も見ずに暗誦できる。

そして今、この前発狂しかけたのを期に、再びそいつの封を開けたのだ。

何のために？

てめえの運命を、もう一度確認したかったのか？

……そいつもあるが、もう一つ理由がある。

俺は、その話の中から、そのクソツタレな運命からの離脱法を得ようと、何ヶ月ぶりかにそのページを開けたのだ。もう、あんな風になるのは嫌だった。あれから俺は、また変人扱いされるようになってしまったし、それに、俺は何としてでも、あいつらを殺してしまうのを止めたかった。

生まれて初めて、俺の存在を認めてくれた“他人”。

俺は失いたくなかった。

自殺ができない俺は、もっと別の方法を採用が必要があった。

どうすれば。

どうすれば、“鬼崎蛇弥闇”と“ダミアン＝ホーン”は離れることができるのか……（そうすれば俺は確実にそいつを殺せる）

4時間、椅子を振らしながら考えた。
答えは見つからなかった。
俺は窓の外を見てから、わざと唾を飲み込んでみせた。
蒸気と狂気の街に、また朝がやって来ていた。

II

「どんなもんだ、マディ？」
「ふむ…裏切り者の出現をくい止めるべく、また我々の力をより結集させるべく、…
いだらう。早速組織づくりを始めたまえ」
「バッカ、もうできてんだよ、おやっさん」
「ほう、そいつはいい。明後日の作戦実行日には、間に合うんだな？」
「たりめーだ、クソ親父」
「それを聞いたかった。頼むぞ、『波津野—“Xeus”レジスタンス同盟』波津野代表、
ミスター・鬼崎…」
「まかせろ、“Xeus”代表、ミスター・ラング」

1時間にわたる、マディと俺の会談が終わった。議題は、俺の考案した、波津野側と
“Xeus”攘夷派との正式同盟団体、『波津野—“Xeus”レジスタンス同盟』～俺はセン
スがないので、いい名前を思いつかん～の設立と組織構造についてだ。あっちも、そんな
ことを前々から望んでいたらしく、組織についての話はちと手間取ったものの、ほぼ俺の
案通りのものを認めさせた。すなわち、

①波津野側・“Xeus”側の代表1名ずつと各部署～実働部、作戦・情報部、交渉部～の
顧問各数名とで構成される“首脳部”と、ヒラの同盟員～1人1部署の原則～で構成され
る、前出の3部署とで同盟は成り立つ

②波津野代表は、推薦により、鬼崎蛇弥闇

“Xeus”側代表は、上に同じく、マディ＝ラング

実働部顧問は、藤丸優一、相原翔、エリスタン・オーレスン

作戦・情報部の顧問は、新尾崎真倉、アルダ～攘夷派と開国派とを行き来するトリプル
スパイである彼女は、どうしても名字を明かそうとしないのだ～

交渉部の顧問は、土竜将一、ナーシム＝追難

③ヒラの同盟員は、有志により各部署共、上限20名までの参加とする

以上の3つの大原則のことだ。

元々、この組織の考案を俺に言ってきたのは、他にもない藤丸だった。

「どうせ俺達はアリなんだ。アリはアリらしく、力を合わせて…つまり、1つに固まっ
てみりゃいいんじゃないのかな、兄貴」

俺は、地元の明神大学生であった(?) 奴の言葉を信じてみることにした。一晚紙とに
らめっこをし、組織図を書いた。そしてそれをマディに見せた後、英商館に戻って会談し
たのだ。

すでに、心当たりには声をかけてある。俺が独断で決めた顧問職に、彼らは喜んで就い
てくれたし、ヒラの連中も、満杯とはいかなかったが、上限の半分ぐらいは集まってくれ
た。その中には、俺の狂乱を目の当たりにしたはずの女、すなわち実働部顧問の相原もい
たのだ…

俺は正直言って、驚きを隠せなかった。奴らはつい昨日まで、俺を見る眼の色が違っ
ていたはずだ。それをなぜ今さら、俺のような“狂人”の話に集まってくれるんだろう…？
ま、いいや。きっと奴らは、俺のことをレクター博士のように思ってるんだろう。“知性
ある、偉大な狂人”として見ているんだろうな…それならそれでいい。俺の存在をキチ
ッと認めてくれるんなら、それで大満足さ…俺のことを狂戦士として使うつもりでも、
一向に構わない。その方が、俺が

(恐怖を知らない狂戦士が)

おとりになってる隙に作戦を実行できるので有効的かもしれない。…一向に構わん。

もし本当にそうなって“死ぬる”のなら、俺にとって、これ以上の幸運はない。
…何か、考えが絶望的になってきた。これだから俺はダメなんだ！作戦にしろ俺の運命にしろ、キチッと“先”を見ながらやっていると絶対結果は悪くなる。もちろん、“先”にあるものは“希望”だ…それいつなくしては、生きること自体無理だ…

「…考えすぎて頭痛えや。休むか…」

また、現実逃避みたくなってしまったが、俺はもう寝ることにした。一晩寝りゃ、頭のもやもやなんざ吹っ切れるだろうよ…

「あ、いたいた…おーい、総統!!」

と、突然背後から、新尾崎が声をかけた。

「ん、どうした情報部顧問。それと、なんだその“総統”ってのは」

俺は、面倒臭そうに言葉を吐き捨てた。

「いいじゃないですか、それより同盟の名前、思いつきましたよ！あたしの自信作でさ」

「言ってみな」

「『Xeusの勇気』どうです？いいでしょ？」

「どんくせえな、せめて『The Brave of Xeus』にしろ」

「あ、それいい！なんで気づかなかったんだろ、英語にするってことを…」

「わーたらさっさと行け、俺はうざってーんだよ」

「あ、はいはい分かりました総統！では、皆に伝えてきます」

「だから総統はよせこのクソガキ」

「はいはい」

考えてみれば、まだ夕方だった。

まだ、灼熱の火球が地上にのさばっている時なのだ。当然、寝れるはずがない。それで、セルシウス飲んで強引に寝た。

夢も見ず、熱と汗とに苦しむだけ苦しんで、結局次の日の昼前まで寝ていた。

III

自家発電の電灯に照らされた書斎。

その中の大机に座った、俺と大田原。

俺達以外には、静寂しか存在しない…

改造中の、飛行戦艦ハデス内、ウエストコーストの部屋だった大部屋の一角。

大田原が言った。

「やっぱり、最終的には“銀の船”に行って、奴らを倒さないといけないと思うんだ」

「こいつで行くんだろ？」

「ああ、俺達の装備の中で、少なくとも武装してる飛行機械はこれぐらいだし、宇宙に飛び出せるだけの改造を施せる機もこれだけだ」

「ところで…なんか前と比べて、口調が違くなえか？」

「あの時は、あんたの方が俺より年上だと思ってたんだ。聞いてみれば、あんたは25歳、俺は28歳。本当なら、あんたが下にまわるべきだと思うね」

「ケッ、フケ顔で悪かったなこのケツ野郎」

「何とでも言いたまえ」

「閑話休題だ。本題に戻れ」

静寂の空気が、ほんの少し揺らぐ。

「…今、ハデスは、内部からの圧力に耐えられるように構造を強化している。意味は分かるな、鬼崎？」

「ああ」

「すでに、ロケットエンジンの取り付けに武装の強化…反重力ユニットを逆に利用して、重力の固まりを打ち出せるようにした。もちろん、異星人の技術なしには、とうてい無理な仕事だったがね…、外壁のコーティングは終わってる。あとは、さっき言った構造強化ぐらいだが…もう2週間ぐらいかかる、とエリスは言ってる。ちとトラブッたらしく

てな、本当ならもうできてるはずだった」

「それで」

「その2週間のうちに、反撃を喰らおうものならおしまいだ。なにせ、ハデスは今中身をバラしてる最中、言うならば、あんた達が前に乗ってったステルス複葉機と同じくらいもろい。破壊されようものなら、あと半年は攻撃は無理……いや、もつとかかるかもしれない。……俺は、今までの作戦には直接関わってはいなかった。だから、あんた達が今までどんな破壊工作をしてきたのか、俺は知らない。しかしこれだけは分かる。奴らが、ただ受け身に回っているだけとは思えない……そろそろ、反撃が来てもおかしくないんだ。分かるな？」

「ん」

「そこでだ……一つ言っておく。クリスタルタワー襲撃は、決して失敗の許されない作戦だ。今までのもそうだったはずだが、今回の作戦はXeus開国派の勢力を根本的に弱めるのが目的だろう。成功すればいい、しかし失敗しようものなら、奴らは確実におのれの危機を感じ、俺達を潰すべく猛反撃に打って出るはずだ。奴らの戦力は、身をもって分かってるはずだな？」

「まったく遠回しな言い方しやがって……要するに、しくるなってことだろ!?んなことぐれえ、言われる前に分かってんよ!これでも俺は、侵入部隊の隊長なんだぜ、他の誰よりも、そのことは分かっているつもりだ」

「そう、それならいいんだ」

「まったく襲撃はもう明日……いや、さっき日付変わったから、今日じゃねえか!これからクソ忙しいのに、こんなことに呼びつけやがって……てめえの方こそ、手をすべらして改造に失敗した——なんてバカやるんじゃないぞ!新聞記者のくせにんなことしやがって、ちったあ記者みたくしてろよオラ!？」

「そんな憎まれ口叩くぐらいだったら、きっと大丈夫だろうよ。期待してるぞ、総統」

「てめえ……新尾崎に会ったな!?まったくあのバカ……おめーな、同盟員でもねえのにんな口叩くんじゃねーぞこのクソ親父!」

「ほう、では同盟員ならいいんだな？」

「……勝手にしろ!力貯めとかなきゃなんねえから、今日のところは許しといてやる。あのクソタワーをぶっ潰して、銀の船を落としたその時は……ま、せいぜい首洗っとけや」

「……死ぬんじゃないぞ、貴様一人の“名誉の犠牲”なんて、誰も喜ばないんだからな」

「てめえ、俺を一体誰だと思ってんだ?俺様はな、

(獣の王)

“悪魔退治人”鬼崎蛇弥闇なんだぜ……“俺を信じろ”ってT-800も言ってんぜ」

「呼びつけて悪かった……もう行って休んでくれ」

「……また、ここで会おうぜ」

「ああ」

埃まみれの夜は更けていく。

俺は、またあいつに“クソツタレ”と言えるだろうか……?

IV

昼。

人殺しの日差しが、ギブソン砂漠を焼いている。

人は家から出ようとしなない。

クリスタルタワー周辺の立入禁止区域の広場は丸裸で、身を隠すための日陰が全くない。こんな所にこんな時間散歩するのは、犬と警官ぐらいだろう。

同盟の実働部を中心とした滲入部隊は、3隊に分かれてタワー近くの建物の中に待機していた。今回、侵入には12レベルという高レベルのトランス能力を持つ男、志牙の協力により、直接タワーの中にレポートすることが可能になった。いくら何でも20人以上も一度に一人でトランスさせるのは不可能なので、3つに分けたのだ。

ダララララッ

パンッ

「うおおおおおお!!」

バキッ

ドシヤッ

「ごついのがないだけ楽ですね」

パンッ

「将!何分経った!？」

ゴシヤッ

「10分」

「チッ」

「兄機!こっちの身代わり機関は何分ぐらい保つてってましたっけ!？」

……………

「数分だ」

「だめだ!そっちは警備員の詰所だ!そのフロアに飛び込め!」

「ったく、倉庫かここは」

ステンの銃口が低く唸る。

「走れ!その出口だ!!」

槍のように差してくる光に、ダークブレイカーが鈍く輝る。

「畜生っ、一生寝てろっ!!」

「左!」

オートマトンの体液を全身に浴びた斬摩剣の刃が、狂喜の声をあげている。

ズガガガガガッ

「高速エレベーターはまだかよ!？」

「あとちょい、そこを突破しろ!」

パパンッ

ダラララッ

「どけ!こいつで片付けるッ!」

ボムッ

ゴワッシャア————ン

「そんなもんがあるんなら、しょっぱなから使えよ!」

「バカッ、こいつは一発こっきりなんだよ!点火から発射にクソ時間かかるし……いくらあがいても、俺達の文明はお前らには追いついてないんだよ!」

Xeus人の参加者、ワトスンはその鉄の円筒を放り捨てると、撃たれた左腕を押さえながら後を追いかけて始めた。その腕でランチャーを撃ったんだ、ただでは済むまい……

銀色の空気が、すさまじい速さで流れる。

「あのドアか?」

「おうよ、飛び込め!」

プシ————ッ

「くっ、パネルの字が読めないぞ!」

「上から12番目の奴が、多分66階だ」

「あんたを信じよう」

プシ————ッ

ガクン。

「速いな。66階」

「耳が……」

「あとにしろ。行くぞ」

プシ————ッ

「こ、これは……?」

ゴヤ、シャガール、モネ、カーベット、安全剃刀、歯磨き粉の缶、ドレッサー……

「あの野郎の部屋か」
風が流れだした。
ドンッドンッドンッ
「！」
「奥だ！」
硝煙の、鼻をつく臭い。
凶弾を吐き出した後の、ヤンキー・リボルバーの銃口。
一人、笑う女。
倒れ動かない、ウエストコーストだったもの。
「貴様！せつかくの情報源を!!」
「第3隊の芦屋だな。一体どういうつもりだ」
「……人民に訴える。諸君は皆勇気さえあれば全て自由な地球の支配者である。贖罪は全
て聖戦のため、進め前」
ドスッ
「ナイスな演説ありがとよ……彼女を見てやれ」
静寂。
「……ずらかるぞ」
「え!？」
「ここを占拠すると、銀の船からのレーザーが降り注ぐんだってよ。それに、見てみな」
「……」
動かない人形にあいた穴から流れだす、白と青のストライプ。
「オートマトン……影武者って訳ですか」
「人質はいませんでした……」
「またやられたな、俺達」
これすなわち、復讐の邪念。
「おたからはいただいたな。んじゃ、撤収」
成功と失敗の狭間。

Epilogue

暗い部屋に、俺は独り。
“闇”に向かって声をかける。
やっぱり、戦ってる時の俺は、心が踊っていた。相手を倒すことに執着し続け、迸る血
にエクスタシーを感じていた……
そして
自分に向かってくるものを滅殺することに、半ば“義務”じみたものを感じていた。
俺は、破壊を司る“獣”なのだ。
本当だったら、こんな所で人間なんぞに手を貸してなどいなかったろう。
人の死を、一人ほくそ笑んでいたろう。
しかし
サタンは1つ手違いを犯した。
その“獣”の中に、“人”の意識が眠っていたのだ。
氷河期を過ぎたその意識は、元々の意識を抑え、まんまとその体の主となった。
今、また氷河期が始まろうとしている。
だが時すでに遅し、体は“獣”の意識を拒否するようになっていたのだ。
そして今
俺の中には、半分凍りついた“人”と、まだ寝起きの“獣”が、奇形児のように1つに
存在している。
離れることはできないのか。
無理だ。

俺は再び、“闇”の空気の中に溶けていってしまうのだ。

いつか

俺の“獣”が、俺の“人”を喰い殺す。

波だが流れる。

これは“獣”の涙か、“人”の涙か。

sadness

闇。

光がない。

頼む。

誰か俺に“光”をくれ……

誰か

help

頼む

cry.

BGM: ROSE of PAIN (by X)

To be continued

筆者より

この前で後悔したってのに、また酒が入ってます。ま、今回はホーム缶一本つきや開けてねえからぜんぜんシラフだけど……シラフなうちにいくつか言っとくことが。

前回のあの発言。このような場所で感情を出すのはタブーのはず。それに、俺は中立でいるつもりだったのに、結局は那由多信者になっちまった。深く反省してます……もう絶対、このようなことはしないつもりです。でも、“開き直ってる”に怒ったのは事実。……やめたやめた！こんなイタチゴッコしててもバカみてえだ。もうこの話題はこれっきりだ!!

ワープロ打ちの笠原さん(かな?)、今回はだれてしまいました。特にⅡが……やれやれ、また負担かけるなあ……FA成功の反動で事務が多くなって、4月は何もできずに結局GWにズレ込んだし……重ねておわびします。5がつきのFAが成功すれば、イヤでも枚数は少なくなるはずですよ。(つまり、そんなFAだ)修業不足だ！当たり前だ！マトモに話を書き始めたのはNGはじめてからだ！とどのつまり、ただの言い訳。やれやれ……

では、離脱(ジャック・アウト)まで、あと3ライクです。

5月5日早朝

“さあ飲むぞ” 鹿島久義

P. S. クレギやらん理由の中に、1つだけ重要なコト言うの忘れた。

金が無い。これだからボンビー高校生わ!!(涙)

☆ワープロ代行 笠原和子から

……ありがとう。でも文体何とかならない？麻美が持ってた何かの小説にも書いてあったんだけど、「Shitt」(くそつたれ)なんて単語がページごとにポロポロ出てきたら、いいかげん読んで嫌気がさすよ。これは、「キャラクターの性格」だとか、そういう問題では片付かない事だと思う。それをどう処理するかも、物書きの力量の内じゃない？

それと、また「那由多」を批判するような文章になりますが、最近提督はこのネットゲームを振り返って「変に薄いロックみたいだった」と嘆いています。何だか判らないうちにどっぷり酔っ払って、抜けるに抜けられなくなっていた、ということらしいのですが。昨今の安直な「エレキ&ドラム」族に反感を抱いている提督のことなので、そっちのダブルミーニングもあるかもしれない。私はどちらかというとハードSFなクレギオンより、猟奇とセルロイドの香りのする那由多の方が好みなんだけど。

100人に一人

アメリカ政府が最近発表したところによると、米国民の男性の100人に1人、女性800人に1人（特にワシントンでは全住民の内60人に1人割合）がエイズ感染者であるという。

これが事実とすれば、男子校3クラスに1人は確実にエイズ感染者がいる勘定になる。潜伏期間中で未検査の感染者を含めたら総感染者数はいったい何人になるのか？国内での感染者はまだ米国に比べれば少ないが、近年は女性の感染者が目立って増えてきてるとか。その中で海外旅行の若い女性が男と寝る、出稼ぎの外国人女性の売春等のケースが目立つらしい。

男達をさんざん手玉に弄んだ挙げ句エイズ感染を知って自業自得に泣き崩れるイケイケギャル共を見れる日も近い？（私は関係ない！）

科学者も「銭や！」

エイズがウイルスによる感染で発病すると発見された当時、ちょっとした騒ぎがフランスとアメリカの科学者の間で起こった。伝染病などもはや死語に等しかったが、周知のとおりエイズは根本的な根治療法も、ワクチンも未だ開発されずにいるにもかかわらず、患者は爆発的に増えている。科学者たちが血眼になって研究する一方で「エイズを発見したのは俺が先だ！」と互いに主張しあつたのだ。エイズウイルスを発見したとなれば間違いなく歴史に名が残るし、ウイルスの臨床研究、対抗薬の開発等にエイズウイルスが使われるたびに特許料のようなものを支払わなければならないのだという。一方じや自分の体を実験台にしてエイズの研究を日々重ねている科学者が実在しているのを考えると「そんな事してる場合じゃねーんじゃねーの？」と言えるかもしれない。

ふと思いついたこと

今となっては過去の恐怖兵器と言えるかも知れない「細菌兵器」。エイズウイルスを応用したらどうなるか。人間と一部の猿にしかエイズウイルスは感染しないから環境に与える影響は大きくない。現在の分子生物学や生化学、遺伝子操作等を用いればウイルスの感染力、毒性、

生存力の増強や潜伏期間や症状進行期間の短縮等は、難しくないはずである。もし完成したとなったら実に有望な兵器である。

（ただしワクチンの開発が前提だ）問題はいかにしてジュネーブ条約や国連監視団の目を逃れて使用するかだ。環境汚染がないに等しいから核兵器よりある意味では有望かも知れない。

—— 末恐ろしい。

バカヤロー

パソコンゲームをする上で多人数の対戦シュミレーションゲーム（信長の野望とか大戦略ね）はプレイヤーの性格がモロに反映されたりして燃えるものがあるが、ディスプレイ（パソコン専用のテレビのこと）が平均14インチと小さいので見づらいことこの上ない。そこで21インチ程度の大きさが欲しくなり、カタログで探す。しかし問題は解像度である。14インチのドットピッチは平均0,28mmだが21インチは平均0,52mm。解像度の差は明らかである。（数字が小さい程解像度が良くなる）ついでに98買うつもりなんだからハイレゾモード対応が欲しい。三洋のカタログにその解があつた。21インチでドットピッチ0,31mm。21インチで確認した中では最高性能であつた。しかし結論は「買えない」。定価¥630,000である…

2度目の退役

湾岸戦争の折、トマホーク巡行ミサイル数十発を発射したことも、16インチ砲の豪快な砲声を轟かしたことも、もはや過去である。先日戦艦ミズーリが退役した。知らない人もいるかも知れないがこの艦は、日本史の教科書には必ずといっていい程登場する。なぜなら太平洋戦争の終戦調停がこの艦で行なわれたからだ。戦後米海軍は空母機動部隊の増強には努めたが、戦艦は「もはや過去の遺物」として退役させてしまった。（その辺のことは私はあまり知らないが、菊地編集長が詳しいはずだ）しかしレーガン大統領（あれ？カーターだっけ？）の任期中に近代化改修を受けて老兵復

帰となったのだ。現在の戦艦は、せいぜい空母機動部隊の護衛か、上陸作戦の援護砲撃、巡行ミサイル発射ぐらいしか役目がない。戦艦同志の取っ組み合いのケンカをしなくなった今、対化学、対核防御装甲やら電子装備を抱えたミヨーに不恰好な艦橋、乱立するアンテナ類等により戦艦に限らず艦船は大戦中ほど魅力がない。役目も人気もないとなれば退役しか道はない。しかし湾岸戦争という花道ができたお陰で退役のイメージも悪くないかもしれない。つぎに戦艦が復帰するのはイスカダルへ旅立つときなのだろうか。（ちなみに最近の分析ではアイオワ級と大和級が一騎打ちすると大和級が敗けると判定されたそうである。）

Q；戦艦ミズーリ号の艦内行商人の名は？

A；水売り

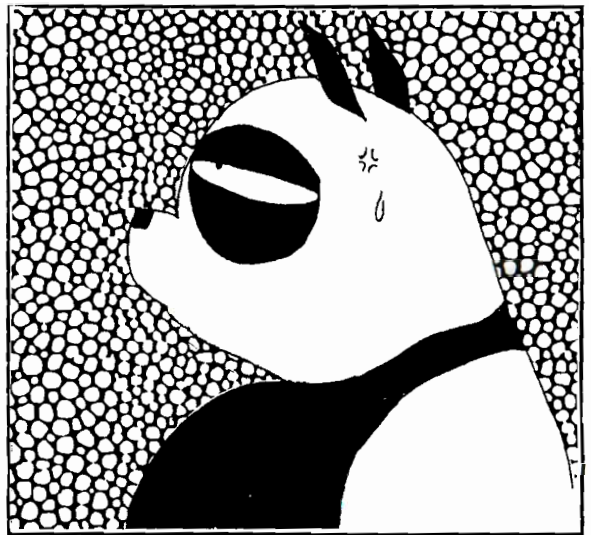
—— 誰だっこんな下らないこと考えたのは？

肉食パンダ参上！

パンダといえば愛らしく、公的には、日中友好、国民的には動物園の人気者のイメージが強い。いま日本のコミック業界で5本指に入る作者の作品にご飯や味噌汁を箸で食べる妙なパンダがいるらしいが現実問題としてやっかいなパンダが現われた。4/17北京発新華社電によると中国四川省に現われた肉食パンダが村の山羊を31頭も襲ったとか。このパンダは、体重が75Kg程度の雌。なぜ主食であるはずの竹の葉を食べなくなったかわりに山羊を襲い始めたのかは分かっていないが村では「生きてる国宝」を攻撃したり追い返すわけにもいかずジレンマに陥っているらしい。「肉食パンダ」が「人食いパンダ」にならないことを祈るのみである。

天使の行方

今世紀最大の虐殺事件は何と云っても第2次大戦中のナチのユダヤ人虐殺であろう。なんと500万人ものユダヤ人が生体実験に供され虐殺されたとされている。その張本人は特A級戦犯ヨーゼフ・メンゲレである。「死の天使」と異名を以て恐れられたこの男が実は今も生きていうウワサが流れたのである。大戦中、ドイツの敗色が色濃くなるとナチの親衛隊の多くが南米へ逃亡し、潜伏したがメンゲレ自身も南米へ逃亡したらしい。その後1979年にブラジルの海岸でこのメンゲレの水死体が発見され、



墓も建てられているのである。この良からぬウワサと時同じくしてアルゼンチン政府（だと思った）が逃亡した親衛隊員リストを公表したためイスラエル大使館が爆破され百名以上が死傷する爆弾テロが発生した。事態を重く見たブラジルのマツス連邦判事がメンゲレの遺体の再鑑定の決行を指示。今回はDNA鑑定が用いられた。現在生存するメンゲレの子供から得たDNAと遺体のDNAを比較、結果は、遺体が本物であると断定された。死後10年以上たった今になって百名以上の人を死傷させるとはさすが死の天使と言うべきだが実に迷惑な話である。

楽しい給食

静岡市の給食センターで調理された給食には怪しい「宝物」が混入しているらしい。去年、一昨年との2年間で学校給食中の異物混入がなんと89件も報告されている。ちなみに混入物の内訳は、昆虫類38件、毛髪7件、金属タワシ片7件、ビニール類5件、しゃもじ等の木片5件、その他温度計の破片、豚の伝染病予防用注射針、金属ざるの針金等々。県の教育委員会は、「子供に無用な不安を与えたくない」として生徒にもその家族にも報告しなかった。だったら不安を与えなきゃ豚の餌だろーが牛の餌だろーが金魚の餌だろーが何だろーが何食べさせてもいいと考えているのか教育委員会は。実に腹立たしいふざけた対応である。

歴史的新発見

90年2月に福岡県鞍手郡宮田町の千石峡で見つかった肉食恐竜の歯の化石が北九州市自然史博物館の鑑定で世界で発見例のない新種であるだけでなく、分類上更に大きな区分である新属だということが判明した。この化石は中生代白亜期前期（約一億三千万年前）の地層「脇野亜層群」から発見され、当初メガロサウルス（現生哺乳類ハイエナに似た食性を持っていたと考えられている肉食恐竜）と言われていた。勿論新属の新種発見は国内初である。

一方で89年に米ニューメキシコ州のカーソン国立公園で発見された丸く細長い石が約1600万年前の有史前動物の化石と判定され、関係者を大いに喜ばせた。しかし、化石学者マイク・オニール氏が2ヵ月に及ぶこの石に関する研究結果を発表するや関係者を落胆させた。石の正体は現生哺乳類、おそらく雌牛の胃石（胃の中で消化を助けるために飲み込む石）だったのだ。

公開中止！

原子力発電に使われる核燃料の輸送情報の非公開を科学技術庁より求められていた福井県はこのほど科学技術庁の要請を受け入れることになった。輸送情報の公開は当初、原子力技術の軍事転用を防ぐ目的だったが、最近では周辺住民の生命や財産、知る権利を理由に行なわれてきた。テロリストからの核ジャックを考慮し、情報は輸送直前に公開されてきたがこれからは全て闇の中でことが運ぶのだ。このことがエスカレートして科学技術庁が核物質防護の名目で情報隠しの可能性も生まれてくるのである。

これまでは情報を公開すること自体が世界と足並みの揃わないことだと指摘されてきていたが核燃料を使用する国として問題がない国とすべきなら仕方のない措置と言えるかも知れない。何しろ現物さえ手に入れば原子爆弾など簡単に作れるものなのだから。料理用の金属ボール2個、固形パラフィン、C4（プラスチック爆弾）もしくはこれに変わる爆薬、起爆装置、これだけで原子爆弾の製造が可能なのだ。製造方法を書く訳にはいかないが、いかに簡単に製造できるかがお分かりいただけよう。簡単な製造工程で膨大な破壊力が得られるのだからテロリストが見逃すはずがない。（なんで私がこんなこと知ってるんだろう？）

教育上---

ニューヨークで5/8に発売になった人形「ジュディ」は一風変わっている。体長30cmで195gだが、腹の中の赤ん坊が取り外し自由なので「妊娠」、「出産」が自由自在なのである。地元の女性団体は「簡単に妊娠したり普通の体に戻ったりする人形は子供たちにふさわしくない」と発売後5日を待たずに非難の声をあげた。しかし不可解なのは店頭でこの人形を求めて女子高生が列を作ったことである。単なる人形オタクの群れなのか？

パンツと人類滅亡

デンマークのニールス・シャッベーク教授らの研究グループが旧西側諸国の男性を対象に精子の放出量と密度を調査、分析してみると50年前と比較して数が半減していることを突き止めた。

40年代には1ml中2000万から1億5000万個の精子が平均値として算出されていたが、90年代には半減していたのだ。特に精子数が2000万個以下の「生殖困難者」や500万個以下の「生殖不能者」が明らかに増加しているという。（なぜ数が少ないと生殖困難になるかという行為の後に放出された精子は女性器中の酸による自浄作用により相当数が死んでしまうからである。よって数が少ないと壊滅してしまう）

研究グループは環境中に放出された有害物質が原因だとして注意を呼び掛けているが、他の専門家は最近の性的刺激の氾濫による性交過多や精子の生産に悪影響を及ぼすブリーフ着用が原因とも見ている。

チキンWAR

91年8/30付けの英紙「オブザーバー」によると反体制ゲリラの多いパキスタン国境付近のある家に一羽の鶏が飛び込んできた。この所有権をめぐる隣家と口論となり、飛び込まれた方が、がんとして所有権を譲らなかつたためライフルや手榴弾を持ち出す騒ぎになった。しかしそれでも治らずしまいにはロケットランチャーを持ち出す内戦まがいの戦いにまで発展し、計4名の死者が出たという。

三等雑居室 — 情報交換または言いつばなしの読者コーナー —

★前略 厚木の時はどうも！おかげで再び戦闘機を見る、触ることができました。（※神奈川県厚木市の厚木基地の航空祭のこと。菊地氏以下関係者数名で現地突入。以後中略）

そういえば読者(?)コーナーらしきものが出来るらしいですが、今回は何も書きません。というより書けません。というのも第一「やだっ！」(カウンターストライク)の方(処理)がありますし。学校、バイトの連続で正直言って書く暇がありません。しかし暇というものは自分で作るもの、例え睡眠時間を削ってでも時間を作りたいです。が、今回は勘弁してください。次回何かしら書きたいと思います。(何を?) ←さあ?(多分ろくでもないこと)

といつつ実は今、ゲームをやったりする。(X68K版サイレントメビウス)本当、誰か買ってくれる人いないでしょうか? (小西清彦)

✦ハイ、いきなり「何も書きません」というお手紙を無理矢理ここにブチ込んだとんでもねー編集をする田中真人です。小西さんには厚木祭の時にずいぶん親しく話かけていただき(BLOWERSの読者さんっていい人なんだなあ)としみじみ感じましたヨ。しかしご本人は68を売りさばきたいようですが、68は国産パソコンとしては究極のホビー機ですからそれなりの遊びがいがあるんでしょね。PCエンジン版のサイレントメビウスを待つ身としては羨ましいかぎりです。

★Look! (4/21)読売夕刊から。アメリカがSR-71の後継機として「革命的なエンジン」を搭載したマッハ6の超高速偵察機を開発中でネバダやカリフォルニア上空でテストを行なっており、夜空を高速で飛ぶ物体が目撃されたり、高速飛行による衝撃波が記録されているとか。ホンマかいな? (林 孝始)

✦まずSR-71ですが知らない人のために書きますが、この偵察機はニックネームを「ブラックバード」といい、文字どおり機体全体が真っ黒に塗られた飛行機です。70年代に就役し始めた高速偵察機で、戦闘機でも到達できない高度3万mをマッハ3で飛んで敵地を偵察するというキレたシロモノです。高空を高速で飛行するため、いざ侵入してきたこのSR-71を迎撃しようとしてミサイルを撃っても届かないし、追いつけない。戦闘機なら3万まで上昇する間にさっさと逃げてしまう。こういった芸当が出来るため冷戦中は旧ソビエトや北朝鮮領空に侵入して偵察を続け、損害0という記録が残っています。最近退役して博物館なんかに送られているようですがこの後継が実はずいぶん前から噂されていたのです。それを最初に騒ぎ始めたのが「米軍や米政府と異星人の関係」を信じるいわゆるUFO関係者だったのです。彼らが言うには噂の後継機は「オーロラ」というニックネームを持ち、開発技術は異星人より得たものをベースにしている、というのです。事実、軍関係の航空機会社のテスト場があるネバダ空軍基地では(真偽は分からないけど)UFOが数多く目撃され、写真やビデオにも多数撮られているのです。「オーロラ」自体は去年の1月頃(湾岸危機の影響?)から姿を見せ始め、徐々にですが存在を裏付ける物象も出てきているようです。それにしても日本の新聞は、こういうミステリアスかつ現実性を帯びた話題はいつもずいぶん遅れて載せますネ。(なんでお前がこんなこと知ってるんだよコラ(笑))

★Dearヴァニー ネットワールド載ったネ。今回はきちんとBlow用行状(右ページ参照)ホントは、ヴァニーとブルーのからみ書いてたんやけど、その裏に書いた落書の方が気に入ったのでペン入れしてしまいました。(後略) (Your's Blue)

菊: イラストは一向に構いませんが、欲を言えばもう少しコメントが欲しかったなあ。…「からみ」って、別にエッチなやつじゃないよね…ブルーだとどうもあってもおかしくないし…別にいいか。

✦ページの都合で載せられなかった人、ごめんなさい。次回もお便りを編集長が待ってますヨ。

Prometeie!



☆ プロメテアです。今回ブルーは髪編んで
みました。次回はちがう人描きますね。

MADE
IN
LITTLE FACTOR

某日。菊地研一郎編集長氏自宅へ電話を入れ、「BLOWERSの編集長をやってみたいんだけど。」
「あー前からやりたいって言ってたんだからやってもいいよ」—— 実は編集長には悪かったんですけど、僕は BLOWERSの編集・製本には色々と不満があったんです。そこで僕が手を加えてみてどこまでBLOWERSが変わるのか、どこまで僕の編集が評価されるのか（その意味で今回アンケートを付けました。）試してみようと思い、実行しました。（編集長と僕の自宅が近かったということが幸いました。）BLOWERSは「メカとSFおまけにファンタジー」という方針の基で発行されていますので、今回僕の編集の評価の吉凶で将来もっと内容の自由度が高い同人誌を作ろうと考えています。

☆表紙を描け！

僕は小林源文のファンですので（コミック黒騎士物語の作者）それっぽく薄墨で色付けて仕上げってみました。でも安物の水性ペンで線入れをしているのでミョーに線が汚くなってしまいました。（りなさん、細くてきれいな線を書くにはどうしたらいいんでしょうか？）素材はRX-178ガンダムMK-II。ラジオ関西の「青春ラジメニア」の4月月末特集に触発されて書いてしまいました。僕自身がガンダムという数十種類ものバリエーションがある中でいちばん気に入っている機体です。この機は、「機動戦士Zガンダム」でデビューしましたが、合体もせず、変形もしない本物の兵器らしい点（オプションはつきますが）、ゴツイ重装甲の中にある均整の取れたデザインが気に入っています。さて、うまく印刷に出るでしょうか？

☆裏表紙のネタを考えろ！

これは最初にネタを思いついたからこそ（編集をやろう）という考えに移行した直接の動機なのです。つまり思いつかなければ編集はやらなかったかもしれない、ということです。今回はヤバイ内容のように見えますが、こんなことを書いても菊地編集長は人がいいので（おそらく）怒らないはずです。ネタはコンバットコミック誌連載の新黒騎士物語です。

☆編集開始 …？

5月8日ㄇ切りだというのになんと原稿が僕の手元に来ないっ！菊地編集長に問い合せてみると（まだ来ないのがある）ということなので待っていました。が、一週間たっても原稿が郵送されて来ないのでもう一度問い合せてみると（やっぱり来ないので落ちたものは落ちたまま発行してくれ）と言う。そして原稿が到着したのがなんと5月19日。最初からつまづいてしまいました。

☆終了

印刷されていなかった一部の原稿（読者コーナーや目次、最終ページなど）を印刷し、誤植を修正。勉強の合間をみて3日で原稿を仕上げる事が出来ました。（ただし最終ページはそれぞれのライターが自分のところで情報を書くものですから完全にまとめる事が出来ませんでした。）残りの問題は両面印刷が上手く出来るか、ということです。

結論：編集は精神と肉体を著しく消耗する。菊地編集長は間違いなく「24時間戦う男」である。

ぎょ〜む連絡

※次号表紙イラストはただのりな嬢が担当の予定。愛らしいペンタッチが貴殿を悩殺すること間違いなしっ！

☞裏表紙は未定。誰か話を面白く料理する人いませんか？希望者この指と〜まれ！（死語）

☺イラストレーター急募中！BLOWERSを明るく飾るあなたのイラストを編集長が待ちわびておりますっ！希望者は編集長までご一報をっ！

「次号〆切りは6/12（必着）各ライターの方々、読者あつてのBLOWERSです。各々方の事情がありましようが、なるべく守って下さいね！

EDITORS' NOTES

- ◆「創竜伝」はおもしろなあ（た）
- ◆スーパーで「FISH特売」を「F18H特売」と読み間違え、食料品店でプラモの特売と間違えた。嗚呼…（紺）
- ◆今回のBLOWERSいかがでしたでしょうか？感想のアンケートお待ちしております。（田）

Blowers 第8号
靴4年5月25日発行
定価 300円
代行編集長 田中真人
発行人 菊地研一郎
発行所・印刷局 「空技廠」

SF&Mechanical & Magazine
BLOWERS vol. 8
定価 300円 郵送費（切手） 175円

☞さあさあさあ！この気合いの入った作品群はどうだっ！Damyán=Kizaki氏が描く「Road of The Messiah」が増ページっ！これは見逃せないっ！イラストただのりな嬢の「Mental Ranger」が読めるのはBLOWERSだけっ！「Peace Presser Maya」はイラスト未着のため今回カット。どひ〜っこれからますます目が離せない小説陣だっ！変人紺野が綴るエッセイ「迷想装甲擲弾症候群」次はどんな話を？読者から「こんなんどうですか？」という「迷想〜」への投稿も大歓迎！紺野のウチクにつきあってくれる読者は居りますかな？

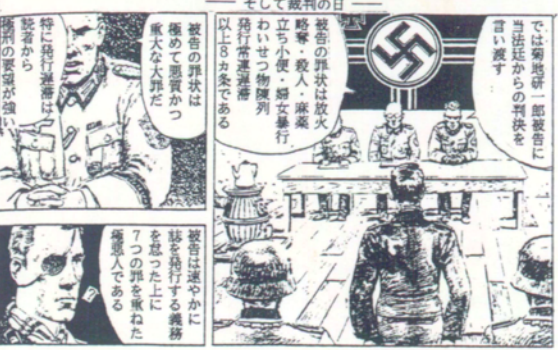
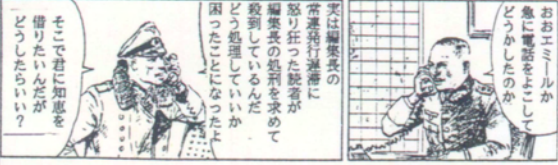
☺同人界の巨匠ただのりな嬢が描くコミック「THE WIND」は〆切りに間に合わず残念ながら掲載できず、まさに断腸の心境。しかしっ！原稿は下書きを終了し、既にペン入れに入っているとりな嬢からの連絡あり。読者の方々っ！次号にご期待あれっ！

✍本誌PBMの増強が決定！田中真人が菊地編集長に申請していたファンタジーPBM「王虎戦史」の掲載認可が降りたっ！（今の時代ファンタジーがないと売れないというわけで認可したとのウワサがなきにしにもあらず）ルールブックは予価一部450円（郵送費込み。BLOWERSと同時輸送するので重量がかさむため高くなってしまいます。）でルーズリーフ挿入タイプと通常の製本タイプが選択可能。申し込みは料金分の為替を編集部まで。引渡しは次号と同時の予定。なお、真鶴レポート最終ページに掲載されている空戦PBMは本誌掲載ではありませんが、参加して下さいねっ！

☹前回より開設された読者コーナー「三等雑居室」。投稿数はますますを記録。読者の皆さんっ、もっともっとおい先短い編集長に嬉しい悲鳴をあげさせてあげて下さいっ！（菊：おい先短い余計だっ）

☹今回は2種類のアンケートがありますがプレゼントは「BLOWERS読者アンケート」に答えていただいた方の中から抽選で公平に選ばせていただきますのであしからず。もちろん'92国勢調査の方もお願いします。

☹その他意見、感想等何かありましたら編集長菊地研一郎までご連絡ください。



S T A F F

EDITOR IN CHIEF KENICHIROU KIKUCHI
SPECIAL EDITOR MASATO TANAKA
ASSISTANT EDITOR ASAMI UGAKI
 KAZUKO KASAHARA
NOVEL-[Mental ranger] WRITTEN-NAGAFUNE YOSHIMITSU
 ART-RIVA TADAWO
PBM REPLAY-[Manazuru report] GAVE DISPOSAL AND WRITTEN-KENICHIROU KIKUCHI
「ATUGI Report」 WRITTEN-KENICHIROU KIKUCHI
NOVEL-[Danyan-kizaki's Road of The Messiah] WRITTEN-Danyan-kizaki
 PRINT OUT-KAZUKO KASAHARA
ESSAY-[Meisousoukoutekidanshiyoukongun] WRITTEN-SHIROU KONNO
 PRINT OUT-MASATO TANAKA
OPEN PLACE-[Santon Zakkyoshitu] WRITTEN-SOMEBONE
 PRINT OUT-MASATO TANAKA
REPORT-[Henshu taikenki] WRITTEN-MASATO TANAKA
COVER ART-[RX-178 GUNDAM MK-2] MASATO TANAKA
SPECIAL THANKS EVERYBODY!

次号 BLOWERS第9号は6月下旬発行の予定です。
申し込み方法 為替¥300+切手¥175を同封して、
 下記まで郵送して下さい。バックナンバーの取り
 扱いについても一部応じます。

今月の裏表紙 「菊地編集長の軍事裁判」
 原盤：小林源文 新黒騎士物語
 アレンジ：田中真人
 ✠読者の菊地研一郎さんっ！あなたのことではあ
 りませんよっ！無関係！

BLOWERS 第8号 第3巻 第4号(通巻9号)
 ※本紙記事の一部、または全ての無断使用を禁
 じます。